

## 宮城県山元町水神沼に見られる津波堆積物

## Geological evidence of historical and prehistoric tsunami at Suijin-numa on the Pacific coast of south Miyagi, Japan

# 澤井 祐紀 [1]; 藤井 雄士郎 [2]; 藤原 治 [1]; 鎌滝 孝信 [3]; 小松原 純子 [1]; 岡村 行信 [1]; 佐竹 健治 [1]; 穴倉 正展 [1]  
# Yuki Sawai[1]; Yushiro Fujii[2]; Osamu Fujiwara[1]; Takanobu Kamataki[3]; Junko Komatsubara[1]; Yukinobu Okamura[1]; Kenji Satake[1]; Masanobu Shishikura[1]

[1] 産総研 活断層研究センター; [2] 建築研 国際地震工学センター; [3] 応用地質  
[1] Active Fault Research Center, AIST, GSJ; [2] IISEE, BRI; [3] none

東北日本太平洋沿岸において、三陸海岸は大きな津波被害を受けてきたことが知られているが、その南に位置する仙台平野では比較的被害が少ない。しかしながら、西暦 869 年に発生した貞観の津波（以下、貞観津波）は、宮城県から茨城県までの広範囲に津波浸水被害を与えたことが歴史記録や伝承より明らかにされている（渡邊，2000：津波工学研究報告；渡邊，2001：歴史地震）。この津波の記録は地質学的にも残されており、箕浦（1990：歴史地震）などが、貞観津波によって形成された津波堆積物を報告している。産業技術総合研究所では、この津波堆積物の分布を詳細に検討し、貞観津波の特徴を詳しく捉えることを目指して石巻平野 仙台平野で調査を行っている。本発表では、宮城県南部山元町の水神沼において行った調査結果を詳しく報告する。

水神沼は、宮城県と福島県の県境近くに位置する小規模な沼である。水深は 1 - 1.5m 程度で、流入河川はないが淡水環境が維持されている。水上より小型ジオスライサーを用いて堆積物を採取した結果、厚さ 2m の泥炭層の中に 3 層の砂質堆積物層と 1 層の火山灰層を確認することができた。放射性炭素年代測定値から判断して、水神沼で見られるテフラは十和田 a 火山灰と考えられた。放射性炭素年代測定によって決定された砂質層の年代、火山灰層との位置関係、砂質層が堆積した当時の周辺環境、砂質層に見られる特徴的な堆積構造、歴史記録との対応から判断した結果、本研究で確認された砂質層のうち 2 層は西暦 1611 年慶長津波、西暦 869 年貞観津波の際に堆積した津波堆積物であると推定された。また、貞観津波の津波堆積物より下位に見られる砂質層は、先史時代の津波による津波堆積物である可能性が高い。会場では、これらの津波堆積物について報告する予定である。

本研究は、文部科学省「宮城県沖地震重点調査観測」の一環として行われた。